

第四 多摩川改修工事

(東京第二土木出張所)

本工事ハ大正七年度創業以來直ニ施工準備ニ著手シ同七年度及八年度ニ於テ實施測量及土地買收調査ヲ終リ本年度ハ新川敷及新堤敷地ニ屬ス可キ一部分ノ土地買收ヲ始メ買收濟ノ箇所ヨリ高水敷掘鑿工事ニ著手セリ

本年度買收濟段別ハ百九十五町二段一畝廿步六合一勺、掘鑿工事ハ掘鑿土砂五萬四千五十一立坪、工費九萬四千九拾六圓六拾九錢四厘ナリ

本年度買收及施工ノ概況ヲ東京府及神奈川縣ニ區分シテ記述スレバ左ノ如シ

東京府内ニ於ケル本年度ノ土地買收區域ハ荏原郡矢口村及六鄉村ノ二箇所ニシテ承諾濟ノモノ土地段別八十一町二畝廿四步、此代金卅參萬五千六百拾七圓四拾貳錢、地上物件移轉料拾貳萬廿九圓六拾六錢合計四拾五萬五千六百四拾七圓八錢、即チ發表金額ノ八割四分弱ニ當ル又掘鑿工事ハ矢口村地先ニ施工シ高水敷人力掘鑿工事一箇所ノミニシテ土砂一萬九千四百卅四立坪、此工費參萬貳千貳百四拾圓八拾壹錢外提供勞力費壹千八百廿四圓八拾錢ノ成功ナリ此工事ハ年度内竣功ス

神奈川縣内ニ於ケル本年度土地買收區域ハ橘樹郡御幸村及中原村ノ二箇所ニシテ承諾濟ノモノ土地段別百十四町一段八畝廿六步、此代金四拾五萬八千四百四拾圓七拾四錢、地上物件移轉料廿壹萬參千五百八拾壹圓六拾四錢、合計六拾七萬貳千廿貳圓卅八錢、即チ發表高ノ九割七分弱ニ當ル又掘鑿工事ハ御幸村及中原村地先四箇所ニ施工シ何レモ高水敷人力掘鑿工事ニシテ土砂參萬四千六百拾七立坪、工費六萬壹千八百五拾五圓八拾八錢四厘、外提供勞力費四千五圓五錢ノ成功ナリ而シテ内一箇所ハ年度内竣功シ其他ハ工事中ニ屬ス

第一章 河川改良工事（多摩川改修工事）

二八

多摩川改修工事本年度ノ總支出高ハ百卅貳萬八千六百廿五圓六拾壹錢九厘、起工以來本年度迄ノ總支拂額ハ百卅六萬六千參百卅壹圓七拾參錢九厘現在物品代價ヲ除クニシテ總工費豫算五百六拾萬圓ニ對シ二割四分四厘ノ竣功ナリ工費總括表ハ左表ノ如シ但シ表中「*」印ハ提供勞力費

費目	前年度迄竣功高	本年度竣功高	現在物品代價	合
				計
浚渫費	四	* 九四、〇九六、六九四 五、八二九、八五〇	五、七二八、〇	* 九四、六一三、八七四 五、八二九、八五〇
土地買收費		七九四、〇五八一六〇		七九四、〇五八一六〇
地上物件移轉料		三三三、六一一三〇〇		三三三、六一一三〇〇
雜費	二一、一七九、四六〇	二七、二七八、〇九〇	二一八、六四〇	四八、六七六一九〇
測量費	六、二二八、六三〇	一、二五一、七一〇		七、四八〇、三四〇
量水標費	三、一八三、五五〇	四八一、五八〇		三、六六五、一三〇
船舶及機械費	一、六三三、七二〇	六七、九八一〇六五		六九、六一六、七八五
機械修理製作費	一九四、〇〇	二、四三三、四三〇	九三三、七四〇	三、三八六、五七〇
施工中諸費	五、四九九、三六〇	七、四三三、五九〇		一二、八九一、九五〇
總計	三七、七〇六、一二〇	* 一、一三八、六二五、六一九 五、八二九、八五〇	一、六六八、五六〇	* 一、一三八、〇〇〇、二九九 五、八二九、八五〇

第五 太田川改修工事

(東京第二土木出張所)

本川改修工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ本年度ハ前年度ニ引續キ測量及土地收用事務ニ從事シ九月靜岡縣磐田郡笠西村ニ改良事務所ヲ開始シ諸般ノ準備及實施計畫調査等ヲ進メタレドモ未ダ本工事ニ著手スルノ運ビニ至ラズ土地收用ハ第一次買收區域トシテ太田川敷地川合流點並逆川原野谷川合流點ヨリ下流海ニ至ル間豐濱村外十二箇町村地内ニ於ケル土地物件ノ實地調査ヲ終了シ協議開始ノ準備中年度ヲ經過セリ

太田川改修工事本年度ノ總支出高ハ參萬貳千貳百七圓九拾八錢創業以來本年度迄ノ總支出額ハ參萬七千四百拾貳圓六拾錢(現在物品代價ヲ除ク)ニシテ總工費豫算參百四拾四萬圓ニ對シ僅ニ零割一分一厘ヲ支出シタルノミナリ工費總括表ハ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高	本年度竣功高	現在物品代價	合計
雜費	一、一六〇七〇 円	一三、九三〇三五〇 円	一四〇〇〇〇 円	二五、一八六四二〇 円
測量費	三、四〇六九七〇	五、〇六一五一〇	三六〇〇	八、四七二〇八〇
水量標費	—	四二五五〇〇	—	四二五五〇〇
船舶及機械費	四〇六五八〇	四九八八〇〇	—	九〇五三八〇
機械修理製作費	—	八一八二〇	三九三四〇	一、二一六〇
施工中諸費	二七五〇〇〇	一、一三〇〇〇〇	—	二、四八五〇〇〇
總計	五、二〇四六二〇	三三、二二〇七九八〇	一八二九四〇	三七、五九五五四〇

第六 富士川改修工事

(東京第二土木出張所)

本工事ハ大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年繼續事業ニシテ工費九百卅萬圓ヲ以テ幹川山梨縣中巨摩郡龍王村ヨリ南巨摩郡五開村ニ至ル五里及静岡縣庵原郡富士川町ヨリ以下海ニ至ル二里支川笛吹川山梨縣東八代郡石和町ヨリ西八代郡市川大門町三川合流點ニ至ル四里廿四町合計十一里廿四町間ニ改修工事ヲ施行スルモノトス

抑富士川ハ本邦有數ノ大河ニシテ古來急流ヲ以テ聞エ其流域ハ長野山梨静岡ノ三縣ニ跨リ大部分山岳重疊溪川急瀉シ一朝颱風ノ襲來ニ際會センカ忽チ出水ヲ招ギ而モ其勢急激ニシテ岸ヲ衝キ堤ヲ破リ沿川沃野ノ地忽チ變ジテ礫洲ト化スルコト稀ナラズ本川ノ治水ハ古來爲政者ノ最モ力策セル所ナリ而シテ明治四十年以後大洪水相繼ギ山岳崩壞堤塘闕潰ノ爲メ甲府平原ノ一半ハ殆ド荒廢ニ歸シ其損害累積シテ數千萬圓ニ達ス之ガ恢復ニ幾多ノ歲月ヲ要スルノ狀況ニ在リ尙下流静岡縣管内ニ於テハ河床高ク耕地低卑ナルガ故ニ一朝破堤スルコトアランカ田圃ノ被害住民ノ危險極リ無キヲ以テ當局者ハ銳意堤塘ノ維持ニ努メツハアルモ流勢急激ニシテ從テ修補スレバ從テ破損スルノ狀態ニ在リ爲ニ工費多額ニ上リ頗ル困憊ヲ極メタリ事情如斯ナルヲ以テ今ニシテ上下流ヲ通ジ統一アル治水策ヲ立テ改修工事ヲ遂行スルニ非ラズンバ其患害遂ニ治ス可カラザルニ到ラン是本改修ノ急務タル所以ナリ

今本川ノ河狀並計畫ノ大要ヲ記述スレバ

流域及流路ノ狀況 富士川ハ其流域長野縣諏訪郡山梨縣甲府市及北巨摩中巨摩南巨摩東山梨西山梨東八代西八代ノ七郡並静岡縣富士庵原ノ二郡合計一市十郡ニ跨リ其面積二百九十四方里ニシテ内平地ハ約四十方里ノミナリ就中利害關係最モ深キハ山梨縣下ノ一市七郡及静岡縣下ノ二郡ナリトス而シテ幹

川ハ上流ヲ釜無川ト稱シ源ヲ山梨縣ノ西北隅ニ屹立セル駒ヶ嶽ノ麓ニ發シ暫ク甲信ノ境ヲ奔流シ南折シテ山梨縣北巨摩郡ニ入り一大斷層谷ヲ流レ中巨摩郡龍王村ニ至リ始テ甲府盆地ニ出ヅ其東岸ハ安山岩質ノ火山岩山塊ニシテ西岸ハ玢岩、輝綠岩及花崗岩ノ險峰ヨリ成ル甲府盆地ハ大古湖水（十七湖水）タリシガ富士川ノ作用ニ依リ陸化セル所ニシテ地形平夷、面積約一萬三千町步ニ達シ凡テ第四紀ニ屬スル砂礫層ヨリ成リ灌漑ノ便備ハリ田圃遠ク連ルト雖モ一朝洪水ノ際ハ被害最モ慘烈ナル地方ナリトス釜無川ハ右ノ盆地ヲ貫キ忍村ニ至リ笛吹川ノ東ヨリ來ルニ會ス是ヨリ以下ヲ富士川ト稱シ流勢漸ク緩ト爲リ南巨摩郡鵜澤町ノ南方禹ノ瀬ニ至リテ再ビ第三紀ノ山地ニ入り南流スルコト約十七里、靜岡縣富士郡松岡村ニ至リテ再ビ沖積層ノ平原ニ出デ約二里ニシテ駿河灣ニ注グ此平原モ亦本川石礫ノ沖積セル處ニシテ遠ク浮島沼ニ達シ面積五千町步ニ及ブ古來洪水ノ慘害ヲ極メタル地方ナリ又支川笛吹川ハ東八代郡ノ北隅雁坂嶺ニ發シ花崗岩、閃綠岩等ヨリ成ル山嶽ノ間ヲ西南ニ流レ同郡日下部町ニ於テ甲府盆地ニ出デ其東南淵ヲ貫キ忍村ニ至リテ富士川ニ注グ其他支川ノ重大ナルモノハ大武川、鹽川、御勅使川、芦川、早川、芝川等ナレドモ沿岸平地少ナク氾濫浸水ノ害著シカラズ

山相 本川流域内ハ山地多ク良材ノ產出乏シカラズ近時建築材料製紙原料トシテ需要加リ山林ノ濫伐漸ク甚シク爲ニ山地崩壞ノ原因ヲ爲スコト多キガ如シ而シテ輝綠岩、玢岩及第三紀層ニ屬スル凝灰岩、泥板岩、砂岩等ハ稍安固ニシテ崩壞ノ憂少ナキモ安山岩質ノ噴出岩之ニ次ギ花崗岩、閃綠岩等ノ山地最モ風化崩壞シ易ク明治四十年ノ大出水ニ際シテハ笛吹川、支川重川、日川、金川等ノ水源大崩壞ヲ爲シ土砂ヲ以テ甲府平原ノ一半ヲ埋沒スルニ到レル事アリ其他幹川筋、大武川、小武川、御勅使川、大柳川、小柳川、早川等其水源荒廢セルモノ多ク國縣協力シテ銳意砂防事業ヲ進捗セシメツ、アリ

雨量 本川流域内ハ山地大部ヲ占メ夏季颱風ノ衝ニ當レバ雨量頗ル多ク一舉ニシテ河流ニ集中スルヲ以テ洪水水量非常ニ多ク從テ其流勢モ亦甚ダ急ナリ今明治四十年以降颱風襲來ノ際ニ於ケル雨量ヲ擧グレバ左表ノ如シ

河 川	明治四十年 八月廿四日	明治四十三年 八月十日	大正二年 十月二日	大正三年 八月二十九日	大正三年 九月十三日	大正六年 九月卅日
釜 無 川	耗 三〇四・〇	耗 三〇四・一	耗 九四・二	耗 二二四・八	耗 九七・六	耗 一八二・〇
笛 吹 川	三〇六・〇	二九〇・三	六六・八	二〇七・一	一六二・六	一七〇・六
富士川 (釜無、笛吹以外ノモノ)	三四六・〇	三四四・四	一五七・一	三〇三・五	二〇五・七	二五〇・九

備考 釜無川流域ノ雨量ハ小淵澤、菅原、若神子、増富、韭崎、龍王、飯野ノ平均又笛吹川流域ノ雨量ハ

宮本、甲府、三富、日下部、日影、黒駒、石和、神金ノ平均又富士川流域ノ雨量ハ上九一色、市川、鵜澤、陸合

西山、硯島、五開ノ平均ナリ、

河床ノ狀況 本川ノ水源ハ山地崩壞著シク爲ニ土砂流下シテ河床ヲ隆起セシメ堤塘ノ危険ヲ醸ス虞アルヲ以テ山梨縣ハ明治四十二年以降所々ニ砂量標ヲ設ケ河床ノ隆夷ヲ調査シツ、アレドモ未ダ充分ナル資料ヲ得ズ然レドモ釜無、笛吹、富士、三川ノ平地部ニ於テ通觀スルニ明治四十年ノ山地大崩壞ニ依リ河床著シク隆起シタリシガ以後數回ノ洪水ニ際シテ河床ハ却テ漸次底下ヲ來シタルガ如キモ笛吹川ニ於ケル石和、上曾根間、富士川ニ於ケル鵜澤、天神瀧間ハ上流河床ノ砂礫流下シテ若干昇嵩ノ傾向アリ灌漑及發電水力 富士川流域ニ於テハ地形ノ便ト人爲ノ功トニ依リ灌漑ノ利大ニ開ケ幹支川ノ水ヲ引用スル總段別ハ一萬八千二百八十町步ヲ超エ内長野縣下四百九十町步、山梨縣下一萬六千百町步、静岡縣

國荒川筋	忍同	大同	二同	增同	石笛吹川筋	睦同	鰺澤船場	鰺澤船場	增同	市川大門	富士川筋	忍同	龍同
母	塚	川	根	和	合	裂	場	場	富	門	筋	王	
八六五・四四	八〇五・三三	八一〇・三五	八二〇・六七	八二九・一五	八八五・〇二	四〇二・八八	七七七・〇二	七七七・〇二	七八一・六六	七九二・五七	八〇五・〇五	八〇六・四二	九六五・三九
(?)	一八〇・〇	一六四・〇	一五・七二	(?)	(?)	二二・六〇	二二・七〇	二二・七〇	二二・八〇	一八・五〇	一七・〇〇	一六・五〇	六・六〇
(?)	一〇〇・〇	八〇・〇	七・七五	(?)	(?)	一七・五〇	二二・二〇	二二・二〇	二二・二〇	七・三〇	七・一六	一・一〇	二・二〇
(?)		六・七〇	四・六〇			二二・〇〇					八・〇四	六・五九	五・〇〇
七・五〇	一六〇・〇	一五・七〇	一五・六八	(?)		二二・〇〇	二八・〇〇	二八・〇〇	二七・八〇	二二・二五	一五・五〇	一七・〇〇	九・五〇
六・九〇	一五・一〇	二二・三〇	二四・六〇	八・八〇	(?)	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・〇〇		一〇・五六	八・二〇	八・五〇
三・八〇	九・九〇	一〇・四〇	八・二五	一〇・五〇	(?)	二二・〇〇	一三・八〇	一三・八〇	一三・八〇	一六・〇〇	一〇・五〇	一・一五〇	五・八〇
三・〇〇	九・九〇	八・四〇	七・四五	九・八〇	五・二〇	一五・五〇		八・五〇	六・七〇	七・四五	八・〇五	八・〇五	四・一〇
五・二〇	一六・六五	一六・〇〇	一五・三五	一四・八〇	一・五〇	二七・〇〇	一九・五〇	一八・五〇	一四・〇〇	一三・二〇	一四・〇五	一四・〇五	七・五〇
	一二・七〇	八・二〇	一一・二〇	九・六〇		一九・〇〇	一二・八〇	一二・五〇	一一・八〇	八・三〇	一三・二〇	一三・二〇	六・九〇
四・八〇	一五・〇〇	一一・七〇	一三・一〇	一一・四〇	一〇・二〇	一六・五〇	一四・八〇	一五・六五	一五・〇〇	一二・八〇	一四・〇五	一四・〇五	六・五〇

芝富士川筋富	地名
一七・〇三 尺	中量 等水 潮標 位零 上位
三四・五〇 尺	明治四十五年 八月廿五日
三一・五〇 尺	明治四十三年 八月十日
三五・〇〇 尺	大正三年 八月三十日
二五・〇〇 尺	大正六年 十月一日
二〇・五〇 尺 (?)	大正七年 九月廿四日

地名		中量	水標	零位	上位
富士川筋	松野	一四・二〇	尺	六〇・七六	
		一四・七〇	尺		
		一四・一〇	尺		
		三三・〇〇 (推定)	尺	一五・〇〇	
		二五・五〇	尺	一四・〇〇	
		二二・八〇	尺	一四・〇〇	

富士川
筋水害調査表
(全流域)

年次	長野縣	山梨縣	靜岡縣	合計
明治三十九年	度數 一 氾濫面積 五町 損失價額 一、七九八	度數 一 氾濫面積 八、八三一町 損失價額 二、五六二、二〇〇	度數 一 氾濫面積 六九町 損失價額 二二、四六七	度數 二 氾濫面積 八、九〇五町 損失價額 二、五八六、四六五
同 四十年	度數 二 氾濫面積 九 損失價額 二五、六九四	度數 一 氾濫面積 八、七五一 損失價額 一一、六二九、八八五	度數 一 氾濫面積 五六三 損失價額 三七三、四〇六	度數 三 氾濫面積 九、三三三 損失價額 一二、〇二八、九八五
同 四十一年	度數 一 氾濫面積 一 損失價額 八三〇	度數 一 氾濫面積 九四九 損失價額 二二二、二九三	度數 三 氾濫面積 一七〇 損失價額 三三、八二三	度數 三 氾濫面積 一一、二一〇 損失價額 二四五、九四五
同 四十二年	度數 一 氾濫面積 一 損失價額 五、三五七	度數 一 氾濫面積 二二六 損失價額 四、七四七、五六八	度數 一 氾濫面積 一 損失價額 三、〇〇〇	度數 二 氾濫面積 三六 損失價額 八、三五七
同 四十三年	度數 二 氾濫面積 一六八 損失價額 五八、八六八	度數 一 氾濫面積 七、五八〇 損失價額 四、七四七、五六八	度數 一 氾濫面積 六八二 損失價額 三〇七、四七二	度數 二 氾濫面積 八、四三〇 損失價額 五、一一三、九〇八
同 四十四年	度數 三 氾濫面積 四六 損失價額 一五、四三一	度數 三 氾濫面積 二、六〇六 損失價額 一、三三〇、三三四	度數 三 氾濫面積 二二三 損失價額 二九二、二七五	度數 五 氾濫面積 二、六七五 損失價額 一、六二八、〇三〇
大正元年	度數 一 氾濫面積 一 損失價額 九四三	度數 一 氾濫面積 八二三 損失價額 三八〇、三三九	度數 一 氾濫面積 七 損失價額 四一、七九六	度數 一 氾濫面積 八三〇 損失價額 四二三、〇七八
同 二年	度數 一 氾濫面積 一 損失價額 三、三七六	度數 五 氾濫面積 九 損失價額 一八、二一〇	度數 六 氾濫面積 九 損失價額 一八、二一〇	度數 一五 氾濫面積 二一、五八六
同 三年	度數 三 氾濫面積 一〇 損失價額 二、六三六	度數 二 氾濫面積 四六七 損失價額 一、一九一、三六二	度數 二 氾濫面積 九七八 損失價額 一〇〇、一八九	度數 四 氾濫面積 一、四五五 損失價額 一、二九四、一八七
同 四年	度數 二 氾濫面積 三 損失價額 六、一四六八	度數 二 氾濫面積 三三四 損失價額 六、一四六八	度數 六 氾濫面積 二八、九二九	度數 九〇、三九七

同五年	同六年	累計	平均(十二箇年)
1	1	2	1
70	263	239	20
5,879	54,366	106,200	8,850
3	1	19	2
70	263	30,706	2,559
5,879	54,366	22,174,417	1,847,868
3	1	24	2
70	263	2,507	209
15,772	3,914	1,240,251	103,354
6	1	39	3
70	263	33,452	2,788
21,650	58,280	23,520,868	1,960,072

備考 度數ノ員數三縣ヲ通ジタルモノト合計ト符合セザルモノアルハ同一被害ニシテ二縣以上ニ互ルモノアルガ故ナリ

右水害損失價額中ヨリ改修區域内ノ分ヲ摘出スレバ左ノ如シ

年次	山梨縣	静岡縣	岡縣	合計
明治三十九年	21,306,000	21,000	21,000	21,328,000
同四十年	10,467,000	373,000	373,000	10,840,000
同四十一年	191,000	333,000	333,000	224,000
同四十二年	4,800	3,000	3,000	7,800
同四十三年	4,273,000	307,000	307,000	4,580,000
同四十四年	1,188,000	292,000	292,000	1,480,000
大正元年	342,000	42,000	42,000	384,000
同二年	3,000	18,000	18,000	21,000

年次	山梨縣	静岡縣	合計
大正三年	1,072,000 円	100,000 円	1,172,000 円
同四年	55,000	29,000	84,000
同五年	52,000	16,000	68,000
同六年	49,000	4,000	53,000
累計	1,998,000	141,000	2,139,000
平均（十二箇年）	166,500	10,917	177,417

改修計畫 本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止スルト同時ニ沿川耕地ノ改善ヲ計ラントスルモノニシテ現今存在スル堤防護岸等ハ何レモ多額ノ工費ヲ費シ數回ノ洪水ヲ經驗セルモノナルヲ以テ大局上有害ナルモノ、外努メテ之ヲ存置シ新改修工事ノ一部ニ利用セントス

計畫洪水流量 大正五年本川調査事業ヲ起シテ以來未ダ大洪水ニ際會セズ爲ニ洪水流量ノ精確ナル測定ヲ行フ能ハザリシト雖モ大正六、七兩年夏季ノ中洪水ヲ實測シタル結果ト流域地方ノ雨量、地形、地質並他ノ類似河川ニ於ケル經驗等ヨリ改修計畫ノ根本タル最大流量ヲ左ノ如ク推定セリ

山梨縣下

釜無川（龍王ヨリ笛吹川新合流點ニ至ル區間）	110,000 立方尺
笛吹川（石和町ヨリ荒川合流點ニ至ル區間）	80,000
同（芦川合流點ヨリ富士川合流點ニ至ル區間）	100,000
富士川（笛吹川新合流點ヨリ天神瀧ニ至ル區間）	200,000

静岡縣下一富士川（松野村ヨリ海口ニ至ル區間）

三五〇、〇〇〇

右計畫流量ノ推定ハ大洪水ノ實測ニ基クノ確實ナルニ如カザルヲ以テ今後尙出水ニ際シテハ其調査ヲ續行スルノ考ナリ

改修方法 山梨縣管内ニ屬スル區域中釜無川筋龍王村以下現在笛吹川合流點ニ至ル部分ハ甲府平野ノ死命ヲ制スル要區間ニシテ現今左右兩岸共樞固ナル堤防備ハリ其位置亦宜シキヲ得タルヲ以テ本改修ニ於テハ大出水ニ際シ尙一層ノ安固ヲ期センガ爲メ水流ヲ中央ニ集中セシムルノ目的ヲ以テ適當ナル間隔ヲ以テ兩岸堤却ヨリ制水ヲ出シ中央部ノ浚渫ヲ行ヒ其砂礫ヲ以テ隣接制水ノ間ヲ埋立テ之ニ依リテ流心ノ堤却ニ近接スルヲ防ギ且堤防闕潰ノ患害ヲ除カントス而シテ現在河狀整正ヲ闕クヲ以テ河積或ハ大ニ過ギ或ハ小ニ失シ洪水疎通力ノ均等ヲ得ザル箇所多シ是等ハ浚渫土砂ノ按配ニ依リテ其矯正ヲ圖ラントス

支川笛吹川ハ明治四十、四十三兩年度ノ災害後其復舊事業ニ際シ一定方針ノ下ニ大體ノ改修ヲ行ヒ大正六年度ニ於テ既ニ其功ヲ竣ヘタルヲ以テ本改修ニ於テハ一部分河床ノ隆起著シク兩岸ノ排水ヲ困難ナラシムル部分ニ浚渫ヲ行ヒ堤防ノ薄弱ナル所ハ嵩置腹付等ヲ爲シ堤外民有地ニシテ洪水ノ疎通ヲ阻礙スルモノハ之ヲ買收シテ築堤用土ノ採取場ニ利用シ尙沿川ノ水腐地ハ充分ナル排水方法ヲ講ジテ地力ノ改善ヲ計ラントス而シテ現今笛吹、芦ノ兩川ハ共ニ中巨摩郡忍村ニ於テ富士川ニ合シ加之モ富士、芦ノ二川ハ急流ニシテ河床高ク笛吹川ハ其間ニ介在シ勾配緩ナルガ爲メ河口逼塞洪水ノ排疏頗ル困難ニシテ其影響遠ク上流ニ及ブヲ以テ本改修ニ於テハ笛吹川ハ芦川ト共ニ新河道ニ依リテ廿八町ノ下流ニ導キ東八代郡高田村地内ニ於テ幹川ニ合セシメ一ハ以テ笛吹川ノ疏通ヲ助ケ他ハ以テ富士川河積ニ餘裕

ヲ與ヘントス

富士川ハ釜無、笛吹兩川ノ合流後下流禹ノ瀬ニ於テ狹塞セラレ水面ノ勾配漸ク緩トナリ現川敷ハ計畫流量ヲ排疏スルニ足ラザルヲ以テ笛吹川ヲ分流シ河幅ヲ擴張シ堤塘ヲ嵩置シ加フルニ多大ノ掘鑿ヲ施シテ充分ナル流積ヲ與ヘ併テ沿岸地方ノ浸水ヲ防ギ尙内地排水路ヲ改良シテ水腐ノ患ヲ斷タントス而シテ禹ノ瀬以下ハ富士川ノ咽喉ヲ扼シ疏通充分ナラザルヲ以テ河積ノ擴張ハ最大急務ナリトスト雖モ兩岸高峯相迫マレルヲ以テ河幅ヲ増大セントスルトキハ工費頗ル多額ニ上ル可キヲ以テ本改修ニ於テハ小柳、大柳兩川筋ニ堰堤ヲ築造シ土砂ノ流失ヲ防止シ點々河床ニ蟠居シテ砂礫ノ流下ヲ障礙セル暗礁ヲ碎キ進デ砂洲ノ一部ヲ浚渫シ以テ疏通力ノ増大ヲ助成スルニ止マルモノトス

静岡縣管内ニ屬スル區域中岩松村大字岩本以下東海道線鐵道橋以上ハ流勢ノ衝激スル所略一定シ多クハ天然岩盤ニ依テ之ヲ支ヘ然ラザル地點ハ堅固ナル工作物ニ依テ水勢ヲ制シ洪水時ニ於ケル流心ヲ略ボ制定シ得タリシガ其大勢今後モ猶持續ス可キ見込ナルヲ以テ本改修ニ於テハ現存工作物並制水岩盤ノ安定ト機能トヲ増進セシムルニ努メントス而シテ鐵道橋以下ニ於テハ水勢ヲ制スルニ足ル天然物ヲ闕キ工作物ノ維持頗ル困難ナルヲ以テ先ヅ大體ノ主水路ヲ定メ要所ニ制水ヲ施設シ其維持ヲ助ケ水勢ノ衝激スル堤脚ニハ制水ヲ出シ礫石ヲ埋立テ以テ其闕潰ヲ防ギ下流無堤ノ爲メ荒廢セル所ニハ新ニ堤塘ヲ設ケテ之ヲ擁護シ其回復ヲ計ラントス尙改修區域ヲ通ジ堤塘護岸等ハ必要ニ應ジテ擴張、増築等ヲ爲シ其安泰ヲ期スルハ勿論ナリトス

本改修ニ採用シタル堤防ノ寸法ハ左記ノ如シ

位	置	馬	踏	兩	法	位	置	馬	踏	兩	法
釜無川	笛吹川		三・〇	三・〇	二・五	富士川 釜無、笛吹 以外ノモノ			三・〇		二・五
自二・〇	至二・五										

又計畫河幅ヲ記スレバ次ノ如シ

山梨縣下	釜無川	自二・五〇間	至一・五〇間	笛吹川	自一・六〇間	至一・〇〇間	富士川	自二・四〇間	至一・四〇間
静岡縣下	富士川	自一・八〇間	至一・〇〇間						

本工事ノ年限ハ上流山梨縣下ノ分ハ著手後十箇年、下流静岡縣下ノ分ハ約六箇年ノ期間ヲ以テ改修工事ヲ了ラントスルモノナリ

工費豫算 本改修計畫施行ニ要スル工費ハ山梨縣管内ニ於テ七百萬圓、静岡縣管内ニ對シ二百卅萬圓、總計九百卅萬圓ニシテ其內譯ハ左記ノ如シ然リト雖モ本豫算編成ニ當リテ採用セル單價ハ大正六、七年ノ物價ヲ標準トセルモノヲ以テ戰前ニ比シ僅ニ二割乃至三割ヲ増額セルニ止マリ爾後物價ノ著シク昂騰セル今日ニ在リテハ聊低廉ニ失スルヲ免ガレズト雖モ今日ノ物價騰貴ハ一事ノ變態ニシテ早晚其低落ヲ見ル可キヲ以テ前記ノ程度ニ止メタルモノニシテ若シ將來相當程度ノ低落ヲ見ザルニ於テハ豫算ノ増加ハ免レザルベシ

費	目	山梨縣管内	静岡縣管内	合	計
土地買收費		六・九〇〇 圓	五・五二〇 圓		六・七四〇 圓

費目	山梨縣管内		静岡縣管内		合計
	山梨縣管内	静岡縣管内	山梨縣管内	静岡縣管内	合計
家屋其他地上物件移轉費	九三、〇〇〇 円				九三、〇〇〇 円
掘鑿費	四二〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇			六七〇、〇〇〇
浚渫費	九二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇			一、〇二〇、〇〇〇
築堤費	二五五、〇〇〇	六六、〇〇〇			三二一、〇〇〇
護岸及制水費	二、五五七、〇〇〇	一、二四九、〇〇〇			三八〇六、〇〇〇
堰堤費	三〇〇、〇〇〇				三〇〇、〇〇〇
船舶諸機械費	六九〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇			九九〇、〇〇〇
船舶諸機械修理費	三四八、〇〇〇	一一〇、〇〇〇			四五八、〇〇〇
機械工場設備費	八〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇			一三〇、〇〇〇
附帶工事補助費	二九四、〇〇〇	一四、八〇〇			四〇八、八〇〇
雜費	三二四、〇〇〇	一〇五、〇〇〇			四二九、〇〇〇
總計	七、〇〇〇、〇〇〇	二、三三〇、〇〇〇			九、三三〇、〇〇〇

改修ノ利益 富士川沿川ノ水災激甚ニシテ其損害巨額ナルハ既ニ陳述セシ所ナルガ本改修ニ依リテ區域内ノ破堤ヲ防止シ得タリトセバ上下流ヲ通ジテ田圃約一萬町歩ノ浸水ヲ防ギ工作物ノ被害住居ノ危惧等ヲ除キ得可ク猶新ニ築堤ヲ以テ冠水ヲ斷チ排水系統ヲ改善シ逆水門ノ新設ニ依リ湛水ノ害ヲ除カバ是ニ由テ地力ノ回復ヲ見ル可キ荒廢地約七百五十町歩ニ達ス可キ見込ナリ

本年度ニ於ケル富士川改修工事ノ狀況ヲ記スレバ本年度ハ創業ニ屬スルヲ以テ上流部下流部共二十一月ヨリ測量ヲ開始シ法線及用地幅杭ノ設定ヲ了シ大正十年一月山梨縣南巨摩郡鵜澤町ニ上流土地收用事務所ヲ又静岡縣富士郡加島村ニ下流土地收用事務所ヲ開設シ共ニ收用調査ニ著手シタルノミニシテ未ダ本工事ニ入ルノ時期ニ達セズ

富士川改修費本年度ノ總支出高ハ五萬六千參百卅圓五拾九錢ニシテ總工費豫算九百卅萬圓ニ對シ僅々零割零分六厘ノ支出ヲ見タルノミナリ工費總括表ハ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高	本年度竣功高	現在物品代價	合計
雜費		六、五六八、九二〇 円	一、四二、三八〇 円	六、七、一、三〇〇 円
測量費		四、二九、三八〇	四、四九〇	四、二、六、四二〇
水量標費		三七六、〇〇〇		三七六、〇〇〇
船舶及機械費		四、四、七、四五、二九〇		四、四、七、四五、二九〇
機械修理製作費			一、一、二、〇〇〇	一、一、二、〇〇〇
施工中諸費		四、二、一、〇〇〇		四、二、一、〇〇〇
總計		五、六、三、三〇、五九〇	一、三、〇、七、二八〇	五、七、六、三、七、八七〇